



☆国・県への要望活動
建設案件、例えば一本の道路を完成させるのに、構想から供用開始までに30年から50年かかると言われるいます。
新たな構想を掲げることも重要ですが、継続案件を粘り強く求めることも必要です。
8月4日、以下の要望活動を

- 一、国に対する要望
 - ①国道23号バイパス早期完成
 - 豊橋市、豊川市、幸田町の各議会と共同歩調を取っておられます。
- 二、県に対する要望
 - ②蒲郡港拡張整備促進
 - 県・国両者に要望しております。
 - ③国道247号バイパス完成
 - バイパスは宮成町から竹谷町までが建設途中です。
 - ④名鉄蒲郡線への存続支援
 - 西尾市議会と共同で要望しております。
 - ⑤ラグーナ海陽地区への支援
 - トヨタ自動車をはじめ企業群と共同で支援をし、一定の成果が見られます。蒲郡市議会はヘルスケア実施計画の支援をします。
- 三、構想段階の要望
 - ⑥名浜道路建設
 - 車専用高規格道路で（無料）蒲郡から西尾市を通りセン

トレア（中部国際空港）を結ぶものです。空港直結は外国人観光にも国外向先端産業振興にも重要な意義があります。西尾市、碧南市、幸田町などの議会と協議しています。

⑦大塚・金野道路

国道 23 号バイパス金野インター（御津ゴルフ場付近）とラグーナを結ぶ観光道路でラグーナ海洋地区支援の一環です。

⑧新国道 473 号建設

この道は清田町から鉢坂トンネルを通り本宿に抜けるものです。現代の車事情に合わない狭隘道路、崩落を経験した古いトンネルなどが問題になっています。新東名と蒲郡輸出港を直結し国内観光、産業振興につながります。岡崎市、豊田市の各議会と協議を続けています。

⑥、⑦、⑧のルートは決定していません。

☆ 後援会からのお知らせ

マイレボ 32 号でお知らせしました通り、新実祥悟後援会では研修旅行を行います。

毎年多くの皆さまから好評を頂いております。今年も過去を学び、日本人の心のふるさとを訪ねる旅となりますよう計画しました。

昨年にも増して、多くの皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

申し込みにつきましてはお電話をくださるか、下表の空欄を埋めて頂き、ファックスでお送りください。後日、お電話の後、正式な申し込み用紙をお持ちします。

● 申し込み先

新実祥悟後援会

電話番号
ファックス番号
0533(68)4615
会費 8,500円

催行日	11月2日(日)	行先(日帰り)	多賀大社と彦根城
代表者氏名		電話番号	
ご住所	〒		
参加人数	希望乗車場所 (丸で囲んで 下さい)	鹿島町神社前	拾石町山田電器前
		竹谷町 塩津公民館北	蒲郡駅南口

☆ 中電浜岡原発視察

平成 24 年 9 月、後援会研修旅行で浜岡原発に行きました。エネルギーの重要性や今後の選択について多くを学び、今でも考え続けています。

8 月 6 日、あらためて浜岡へ行き、原子力発電機、電源コントールルームや建設中の 22m 防波堤なども間近で見えてまいりました。

まず、中部電力が細心の注意を払っていることをお伝えします。そして、現在は全ての発電機が止まっていますが、4 号機の再稼働に向け国の審査を受けつつあることもお伝えします。

ドイツでは再生エネルギーに大転換したところ、企業が国外へ流出してしまつたと聞きます。住民負担も 2 倍に跳ね上がっているようです。

フランスなどの隣国は原発の建設を進めており、一国の政策だけでは解決できない問題

であることも理解しなければなりません。

日本はドイツとは条件が違い、再生エネルギーが普及しない中、碧南など石炭火力発電所や閉鎖予定だった武豊発電所を再稼働させ、電源を充足させていると聞きました。

非常に不安定な状況にあると感じました。

日本は再生エネルギー大国になれるでしょうか。

世界では石炭火力発電所の新設が増えており、CO₂はどんどん排出され、インドネシア・ジャカルタの市街地は水没の危機にあると聞きます。

原子力は基礎科学の発展に大きく寄与しており、日本のノーベル賞学者はこの中で生まれました。この事実は見逃すことはできません。

原子力は危険であり廃棄物処理に問題があることも理解できます。それによって得られる電力は結果として高価であ

ることも事実のようです。

国際協調をして原発を廃止すること、化石燃料を使わないことが決定したとして、再生可能エネルギーだけで今の文明社会を保持することができるとでしょうか。

第二次世界大戦の教訓で、エネルギーの抑制と支配は世界大戦の原因になると見なければなりません。

技術革新という言葉を聞きますがそれは何を指しているのでしょうか。いつになったらそれは来るのでしょうか。

理想を追求するとともに、国民の生活を維持するため、現実を見なければなりません。

重要国際問題については多角的配慮もなく短絡的に決定すべきではないでしょう。このような決定を拙速と言います。

エネルギーの維持と開発については世界の安定を図りつつ、一定の制限を設け、目標を掲げるべきです。

主導すべきは国連安保理ではないでしょうか。

ところで、日本は安保理入りを目指していると聞きます。安倍首相は国連改革のリーダーシップを取りたいと述べておられます。また、常任理事国の枠を増やす提案もしているようです。それに対し、常任理事国側から反対の声が上がっているようです。

抵抗はあつて当然ですが、世界の真の安定を図るために必要な案件だと認識し、賛同します。

★ 9月定例会

○ 25年度決算の審査を9月議会で行います。

一般会計歳出は約250億円、約19・5億円の黒字、競艇会計を含めた特別会計の歳出合計は1,423億円で26・4億円の黒字です。また水道会計は約1・2億円の利益を出し、

病院会計も約1・2億円の利益を出しました。

結論として昨年度の蒲郡の経営は健全だったと言えます。(補足)

決算審査とは別議論となりますが、公債費残高だけでない蒲郡市の負担総額は550億円を超え、予断を許しません。本年度はこれが500億円を切る大胆な政策展開を要請し、期待しているところです。

○ 議員提案条例改正

・ 審議会等の参画見直しに係る条例改正

○ 県へ議会からの要望

・ 蒲郡警察署の立替要望
 ・ 国へ議会からの意見書
 ・ 小中学校の少人数学級の拡充と予算の国庫負担率改善